

雑草と付き合った50年の軌跡

(1) 中国雑草原色図鑑の刊行

全国農村教育協会 廣田伸七

●はじめに

私の人生は雑草と付き合った50有余年である。唯一筋に雑草に関する仕事に専念できたことは無上の喜びであるとともに誇りを感じている。

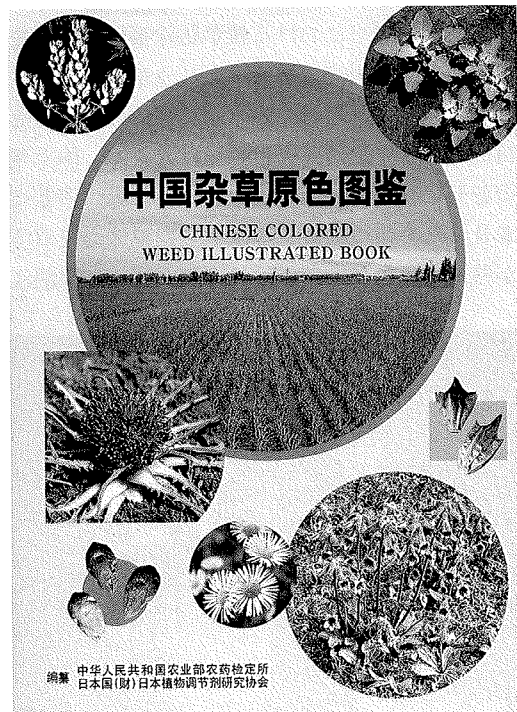
この幸せな人生を送ることができたのは大恩人であり生涯の師匠と尊敬する次の御三方のお蔭である。一人は財団法人・日本植物調節剤研究協会第6代会長（会長退任後は同日植調〔※1〕終身顧問）の吉沢長人様である。吉沢さんは私を雑草と付き合う糸口へ導いて生涯雑草に関する書籍制作の仕事を与えてくれた大恩人である。もうお三方は雑草の知識が皆無だった私を現地を歩きながら2,000種以上の植物を体で覚えるまで徹底的に教えていただいた千葉県高校教諭浅野貞夫先生と除草剤に関する知識を教えてくださいいただいた宇都宮大学教授竹松哲夫先生である。この3人の師匠のお蔭で今日の私があるのである。

私は研究者でも学者でもない。植物を撮影し植物の図鑑を編集、制作する職人である、この職人として一人前にたたきあげてもらった御三方を敢て師匠と尊敬する所以はここにある。

御三方はいずれも故人となられたが、この雑草と付き合った50年の軌跡を書くにあたって、改めて3人の師匠に厚くお礼申し上げるとともにご冥福をお祈りいたします。

1. 中国雑草原色図鑑の発行式典

平成12年（2000年）3月27日、北京市亮馬河大厦で中国雑草原色図鑑発行式典が挙行された。出席者は日本側は日植調顧問（元会長）吉沢長人氏、北京駐在日本大使館農業担当官をはじめ中国雑草原色図鑑の編集・制作に携わった日植調・全農教〔※2〕の関係者。中国側からは中華人民共和国農業部農薬検定所（ICAMA〔※3〕）所長辛氏をはじめ中国雑草原色図鑑の写真



▲中国雑草原色図鑑の表紙

〔※1〕 日植調は財団法人日本植物調節剤研究協会の略称
〔※2〕 全農教は(株)全国農村教育協会の略称

〔※3〕 ICAMAは中華人民共和国農業部農薬検定所の略称

撮影, 原稿執筆, 編集に携わった大学, 農業科学院, 各省の農業科学院, ICAMAの関係者など総勢 100 余名が参集して開かれた。

式典は辛所長, 吉沢顧問の挨拶の後, 中華人民共和国農業部長 (日本の大臣相当) の祝辞 (代読), 日本大使館の農業担当官の祝辞などがあり, 続いて中国より「中国雑草原色図鑑」制作の功労者として吉沢顧問と私 (廣田伸七) に榮譽証書が授与された。また, 中国側の関係者には「中国雑草原色図鑑」が贈呈され, 続いて祝賀会が催された。この発行式典の様子は中国国営の中央テレビをはじめ各テレビ局で放映され, 中国人民日報や各新聞が報道し, いずれも中国では初めての本格的な雑草図鑑として賞賛した。

2. 中国東北地区主要雑草図譜の刊行

私が中国の雑草関係の図鑑制作にかかわったのは昭和 61 年 (1986 年) からである。昭和 61 年 2 月に日植調と中国黒龍江省農業科学院との間で日・中双方における雑草防除事情の把握を目的とした技術交流を行うということを決定した。その具体策として除草剤試験方法の修得を目的とする中国側研修生を受け入れる。除草剤の普及に欠くことができない雑草知識の啓蒙と普及のための中国東北地区主要雑草図鑑を双方が共同で編集し, 制作は日本側が行って黒龍江



▲榮譽証書を授与された
左, 日植調吉沢顧問 右, 筆者



▲榮譽証書

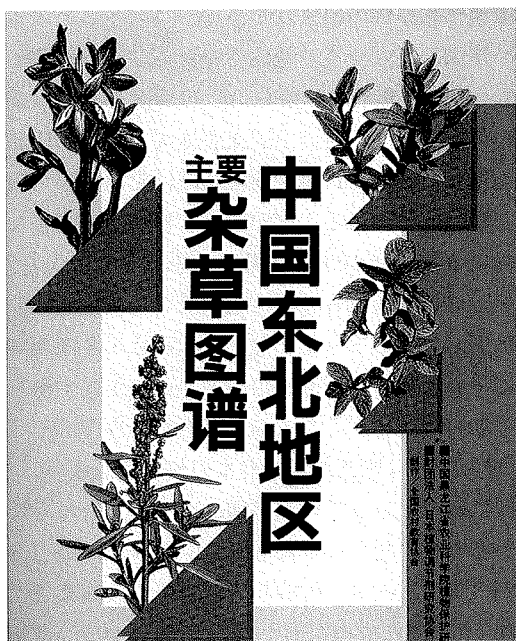
省農業科学院に贈呈するという覚書を交わした。この 2 番目の雑草図鑑作成が私のところに御鉢が回ってきた。61 年 2 月の或る日当時日植調の専務理事だった吉沢さんに呼ばれて日植調に行ってみると, 「廣田君, これから 3 年かけて中国黒龍江省農業科学院と共同で中国の主要雑草の図鑑をつくる。日本原色雑草図鑑〔※4〕と同じように 1 雑草について幼植物, 成植物, 花, 果実, 種子などを入れて, 解説は中国語と日本語, 付録として掲載種の雑草名を中国名, 日本名, 英名, 学名の対比表を入れる内容で作ってくれ」と言われた。

さあ大変なことになった。今まで日本原色雑草図鑑や除草剤関係のメーカーからの依頼により雑草に関する図鑑類は多数手がけてきたが, 今度は見たこともないような外国の雑草を入れて図鑑に編集する。背筋が寒くなった。

この図鑑の制作は中国東北部の現地を見ることから始まった。昭和 61 年 6 月, 私が 58 歳のとき, 覚書に基づいて第 1 回日・中雑草防除技術交流団が日植調技術部長則武晃二 (当時・後に専務理事) さんを団長として日本の除草剤メーカーなどの人を含め 7 名が哈爾濱 (ハルビン) の黒龍江省農業科学院や佳木斯 (ジャムースー) の農墾科学院, 哈爾濱農場局紅旗農場などで現地の圃場を視察した。同行した私は除草剤の現地圃場試験結果などはそっちのけでもっぱら雑草を探しパチリ, パチリと雑草の写真撮

〔※4〕日本原色雑草図鑑(全農教)はこのシリーズの後に記載する

影に夢中。日本では見たこともない草があちこちで見られる。また、日本との共通種も多くあるが日本のものとは少し感じが違うものも見られた。この視察で現地の様子がおぼろげながら分かってきた。これ以降私は技術交流会がある度に同行して写真撮影を行なった。第2回目に参加したときは、黒龍江省側も配慮してくれて、私の日程を技術交流団とは別に写真撮影専門の日を2日間設定してくれた。これはしめしめと思ったのは浅はかな考えだった。朝皆さんは圃場見学に出発。私は科学院の農場の何処でもいいから歩いて好きなように撮影してもよろしい。また、助手を1人つけてやるから適当に使って下さいという有難いお言葉、私は早速作物が植えてなくて草が多い畑を選んで撮影準備をはじめた。日本では帰化植物で当時の日本では殆ど見ることができないキク科のヤネタビラコを見つけたので嬉しくなって私の独特な撮影方法により撮影するため、撮影する雑草本体の株を残して付近の邪魔な草を取りはじめた。助手としてついてきた農場のお手伝いの少年が手伝うつ

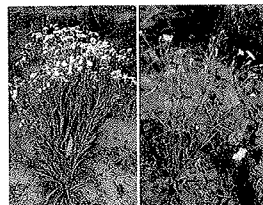


▲中国东北地区主要雑草図譜の表紙

草田雑草 黄鹌菜 (还阳参)



▲幼苗



▲成株

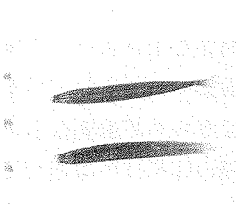


▲花

●黄鹌菜(还阳参) (菊科)
Crepis tectorum L.

越年生。生长期3～9月。主要
危害小麦、蔬菜、果树。种子繁殖。
(幼苗)两片子叶长椭圆形。初生叶倒
披针形，有毛。(成株)茎直立，上部
分枝。根生叶呈莲座状，叶片倒披针
形，叶缘具缺刻状粗齿。茎生叶披针
形，上部叶狭线形，叶缘具粗齿。头
状花序顶生，多数头状花序聚成伞
状。花黄色，均为舌状花。(果实)瘦
果条形，或长卵形，表面棕色，具纵
条纹。顶生白色冠毛，单毛。(分布)
全区。(生活型)Thwv Rs D4 ps

●ヤネタビラコ-Yanetabirako (キク科) 日
本では最近に帰化した雑草で、北海道や本州
などに生育し、今後広がる可能性があるとい
われている。春と秋に発生し、越冬するもの
もある。茎は分枝して直立し、高さ30～100
cm。白い毛があり、茎を切ると乳液が出る。
根生葉は長さ10～15cm。株に不規則な窪面
がある。茎の葉は無柄で全株、上部にいく程細
長い。夏に茎の先に径2cmの黄色い頭状花を
多数咲かせる。種子には冠毛がある。



▲種子

▲中国东北地区主要雑草図譜のヤネタビラコの頁

もりで一緒に草を抜いてくれた。しかしその抜
き方が乱暴で草を抜いた後がボコボコと穴に
なってしまう。これでは撮影してできあがった
写真のバックの地面が乱れていて使いものにな
らない。草を抜く場合はバックの地面が滑ら
かな自然状態が理想である。そのためには草は丁寧
に抜かなければならない。さて、そう注意し
ようと思ってはたと困った。言葉が通じない。私
は中国語はしゃべれないし、まして相手の少年
は日本語がしゃべれない。身ぶり手ぶりでやっ
と理解してもらったが時間はかかるし、くたび
れてしまった。時期は夏、大陸の暑さは尋常で
はない。汗びっしょりでへとへとになってしま
った。こうして撮った写真がこの中国東北地
区主要雑草図鑑に使われているが、20数年経過
した今、この原稿を書いているとその図鑑を開い
て見るとそのときの少年の姿と自分の姿が思い
浮かんできて懐かしくなった。今頃あの少年は

どんな大人になったろう。こうして私が悪戦苦闘して撮った写真と黒龍江省農業科学院の皆さんが撮影した写真と、雑草の中国語の解説を送ってもらい、日本語の解説は中国語を基本にして私が書き編集して、中国東北地方の主要な水田雑草19種、畑地雑草45種、計64種について各雑草のステージ別（幼苗、成株、花、果期、種子）のカラー写真と中・日両国語による雑草の形態・生態の解説、分布、生活型の説明、中国名、日本名、英名、学名の雑草対照表を加えたA5判、84頁の「中国東北地区主要雑草図譜」を2年がかりで作成し、日・中双方の関係機関に配付した。これ以前に中国でも日本のメーカーの協力などによって中国農田雑草図冊など二三の図鑑が刊行されていたが、いずれも成植物中心で写真も不鮮明なものが多く、また、当時の中国の印刷技術は遅れていたことなどにより、正直いって出来はあまり良くなかった。それに比較して「中国東北地区主要雑草図譜」は1雑草につきステージ別の写真を使い、また、写真が鮮明だったので非常に分かり易い図鑑として好評を博した。

3. 中国雑草原色図鑑の刊行

日植調が中国黒龍江省と技術交流を始めた頃から、中国中央部の農業検定所（ICAMA）が黒龍江省という一地方のみを対象とする技術交流ではなく中国全体を対象とした交流を望んでいると再々要望していた。この要望に応じて平成2年（1990年）7月に第1回目の日中農田雑草防除技術交流会在北京で開催された。この技術交流では哈爾濱（ハルビン）、長春、上海、杭州、広東などの現地農業事情の視察が行なわれた。次いで翌平成3年（1991年）6月に今度は日本の岩手県盛岡で第2回目の日中農田雑草防除技術交流会在開催され、中国側からは農業検定所長をはじめ7名が参加し、会議後には関係者が青森、秋田、岩手、宮城、筑波、佐賀、長崎、福

岡などの農業事情を現地視察した。こうして日中農田雑草防除技術交流会は毎年開催された。私はこの技術交流会に度々参加して中国各地の水田、畑地を見て歩き雑草をカメラに収めてきた。

平成7年（1995年）7月28日～8月8日まで第6回日中雑草防除技術交流会在開催され、私はこの度も参加した。今回の農業事情の視察地は中国の最西部ウルムチから西寧、青海地方の菜種畑、蘭州、平安、大連などの現地を見たが技術交流会議は8月1日、2日に西寧で行なわれた。そして2日目の8月2日夜の日本側招待による晩餐会で宴がたけなわの頃、私は吉沢さん（当時日植調顧問）に呼ばれて別室に行った。そこには中国農業部農業検定所（ICAMA）の所長張子明氏が待っていた。そこで紹介された後、いきなり吉沢さんから「廣田君、今度は中国全土の雑草図鑑を作ることを決めたからやってくれ」と言われた。すると張子明氏はにこにこしながら私に手を差しのべ固い握手をされた。私は急なことでただただ呆然とした。これが中国雑草原色図鑑作成の始まりである。

帰国してじっくり考えてみたら、背筋が寒くなった。7年前の昭和63年（1988年）には前述の中国黒龍江省の中国東北地区主要雑草図鑑を作ったが、これは主要雑草だけであるから数も64種、そのほとんどが日本の雑草と共通種なのでこれは私が今まで撮りためた写真があり、中国にしかないものは10数種なので黒龍江省側に撮影してもらおうとともに、私が2～3回現地に行つて撮影して揃ったのでなんとか恥ずかしくない図鑑を作ることができたが、今度はそうはいかない。国土だけで日本の何十倍も広い。一口に雑草といっても何百種あるのか、それもほとんど私の知らない雑草に違いない。しかも、今度の雑草図鑑は一般的な成植物中心の編集ではなく、黒龍江省の図鑑と同じように、幼苗、成植物、花・果実、種子など雑草の一生が分かるよう

な編集にするという。本格的な図鑑にすると仮に1,000種の雑草をとりあげると使用する写真には3,500点～4,000点を必要とする。こんな膨大な気の遠くなるような写真をどうやって揃えるのか、しかも制作期間は4～5年という。考えるだけで恐ろしくなった。

翌平成8年(1996年)4月中華人民共和国農業部農薬検定所長張子明氏と先にお付き合のあった黒龍江省農業科学院の韓逢春氏が来日され、日植調の当時顧問吉沢長人さん、専務理事小澤啓男さん他関係者が出席して、中国雑草図鑑作成の具体案の打合せを行い、次のように取り決めた。

西暦2000年(平成12年)を祝して、日中雑草防除技術交流の一環として、中国の農耕地に発生するほとんどの雑草(牧草・放牧地を含む)を収録した図鑑を作成することを1996年に日本国、財団法人・日本植物調節剤研究協会と中華人民共和国農業部農薬検定所と協議して、両者の共同編集で「中国雑草原色図鑑」を刊行することを決定した。

内容及び分担は以下のようにする。

1. 図鑑の規格・体裁はA4判、カラー印刷500頁、掲載草種は800種前後。
2. 内容は水田雑草、畑地雑草、樹園地雑草とし、主要雑草については発生初期、生育中期、開花・果期などの生育段階の写真を掲載する。一般雑草については成植物など1～2点の写真を掲載する。
3. 記載は学名、中国名、中国の呼び名(ローマ字で表記)、英名、生態・形態の中国語の解説、生活型と日本で別の学名を使っている場合はその学名、日本名(別にローマ字表記)、簡単な日本語の解説、簡単な英文解説。
執筆は中国語関係は中国側、日本文、英語は日本側の分担とする。
4. 写真撮影は日中の共通種については日本側で撮影する。中国独自のものは中国側が撮影する。

5. 付録として中国各地に発生する雑草の全てを地域毎に分けて一覧表として掲載する。この場合図鑑に掲載したものは勿論、これ以外の全ての雑草名を記載する。

6. 図鑑作成の経費は全て日本側が負担し、中国に寄贈する。

7. 制作期間は1996年4月より開始し、2000年3月に刊行する。

以上の案を双方が了解し、早速具体的な行動を開始した。

先ずICAMAでは傘下の各省の雑草の専門家を動員して雑草の写真撮影を始めるとともに中国雑草学会の会員に解説の執筆を依頼した。一方日本側では、日植調会員のメーカー各位に資金協力の依頼をし、中国に撮影及び執筆に要する費用を送金した。また、日本側ではこちらで分担する雑草の撮影を開始した。

4. 案ずるより産むが易し、やればできた

図鑑の設計図は掲載する種のリストづくりである。まず中国側から主要雑草のリストを出して貰ったが、さすが中国大陆約1,000種以上の雑草が上げられてきた。しかし、これでは費用もかかるし、多過ぎるのでもう少し主要種に絞ってくれと連絡したら、今度は約634種として送ってきた。それを検討してみると今度は日本側が主要と思われるような種が落ちているので会って打合わせた方が話が早いということになり、掲載種の選定と雑草撮影の進行状況確認を兼ねて平成9年(1997年)2月に日植調専務理事小澤啓男さんと私が北京を訪れICAMAの関係者と打合わせ、日本側の意向を伝えて最終リストを早急に作成し日本側に送るように依頼してきた。やがて送られてきたリストを見ると前回の634種に追加として115種、それに日本側が追加希望した93種計88科842種であった。これで設計図であるリストができあがったので、これで取り敢えず日中双方で写真撮影を進行す

の名前を明記する。

4. 版權は（財）日本植物調節剤研究協会と ICAMA が共同所有する。再版については両者が協議する。

5. 今後の予定／中国側が撮影した写真及び執筆した原稿の一部を1998年3月に第1回分として日本側に渡し、残りを1998年10月に渡す。発行は2000年3月を目標とする。

2日目は中国が撮影した雑草の写真を映写して見せてくれた。正直のところ見るまでは多少不安があったが、多くの中から選んだだけあってどれも満足できるものであった。これなら立派な図鑑ができると確信した。

中国側の説明によると、1997年11月現在予定の写真の約7割は撮影が済み、原稿執筆も5割は

終わり、残りの写真は1998年7月まで、原稿は10月までに完了する予定であると説明があった。

4. 編集は賽の河原の連続

平成9年11月(1997年)到北京で打合わせ
たときに決まったリストにより編集をはじめた。
私が69歳のときである。リストを眺めても総て
中国名で書かれているのでチンプンカンプン。
これでは仕事は一步も進まない。そこで日本に
もある共通種との日本名対象表を作ることから
はじめた。これは学名であたっていかなければ
ならない。ところがこれが問題、中国から書い
てきた学名の中には日本では使っていない古い
学名が多くある、これは数冊の図鑑であたらな
ければ分らない。この作業にかなりの時間を
要し終ったのは平成9年の年末だった。こうし
た作業の結果800余種のうち日本名がある共通
種は330余種と約4割あることが分かった。

平成10年(1998年)4月15～16日に除草剤ジャンボ剤の件で中国 ICAMA と打合わせを行った日植調の吉沢顧問と林さんが17日に帰ってきて中国雑草図鑑の写真と原稿の7割ぐらゐを ICAMA より受け取ってきてくれた。待ちに待った写真なので早速整理を始めた。リストと照らし合わせて見ると中国側の律義さに驚いた。先に打合わせたときに日本にある共通種については日本側が担当するとは言ったが、私としては日本との共通種でも環境の違いによって中国に生育するものは多少違った姿のものもあるので共通種でも主要雑草ぐらゐは多少入っているのではと思ったが全く何も入っていない。共通種といっても中国があげてきたリストの中には日本では山野にあって凡そ雑草とは思えないようなものもあることが分かった。それともう一つ分かったことは、先に学名によって日本との共通種の対照表を作成したときに共通種は約330種と思っていたが、実際に送られてきた写真を見るとかなり多くのものが共通種ではな

阿尔泰狗娃花 A Er Tai Gou Wa Hua (岩科)
Heteropappus altaicus (Willd.) Nevupokr.
in Altai *Heteropappus*

[illegible]

(和名なし) ①木②花③多年生
 分布：山地、路傍、人家周囲、草叢、砂漠、砂漠や乾燥な
 地帯に生育し、開花地の最上段で、種子と根茎で繁殖。地下に
 10—100cmの根茎は、時には線状とまがり、よく分枝して高さ
 20—60cm、葉は長さ5—10cm、狭長、長円状披針形、長円披針形か
 披針形に長さ2倍、両端または葉面だけに毛や腺毛がある。
 花期5—10月、各枝先に舌状花びら淡紫紅色、葉状花が黄
 色の花柄を多数つける。そう葉は扁平な倒卵状円形で粗
 ざり、縁に毛がつけ、

Perennial weed of orchard, growing in waste land, mountainous district, roadside, grassland, sandy soil and sand dune, propagated by seed and rhizome. Branching stem 200 cm height. Alternate phyllotaxis, linear-oblong lanceolate. Many capitate flowers. Indigo purple ligulate flower and yellow tubular flower.

山苦菜 Shan Ku Mai 苦菜 Ku Cai (菊科)
Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai
(Chinese Ixeris)

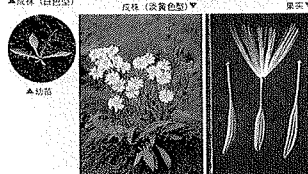
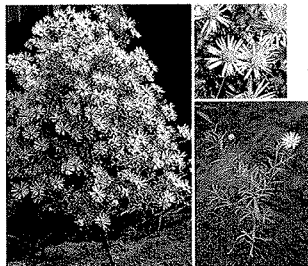
多年生草本。主根回。由根、茎、节、旁，为旱地、
林下喜食植物。根、茎、节、旁。
幼根子叶倒卵形。长约5mm。具短柄。初生叶1片。
幼叶长。无柄。茎、节、旁。叶缘有疏小牙齿。叶
长。具短柄。叶长。
植株高10—40cm。无毛。茎、节、旁。茎、节、旁。
叶互生。倒卵状卵形或长卵状卵形。基部下延成柄。
全缘或具疏小牙齿或不规则锯齿。茎叶1—2cm。无
毛。
花、果。花萼4—7月。头状花序成总状或伞房状。总
苞片长。外苞片倒卵形。头状花序长条状披针形。花
冠5—6mm。白色。果被有短毛。果、节、旁。果、节、旁。
长4—5mm。珠长2mm。茎、节、旁。
分布。主产。主产。主产。主产。主产。主产。主产。主产。
用途。全草供用。清热、解毒。茎、节、旁。茎、节、旁。

タカサゴソウ *Takasagozou* [モク科] ●多年生

畑や木の陰湿、山道、荒野、路傍に生育し、礫地や空閑地や道邊に見られる様で、極度に繁殖。子葉は腎臓形で長さ約5mm、初生葉は卵形で縁に浅い小歯を有するが、柄はほとんど無毛で生ずる。高さ10~30cm、根生葉はロゼット状で、葉は狭長形~長楕圓形、全縁か微鋸があり、または不規則する。葉生葉は1~4枚で無柄。花茎期1~7月、葉先に古葉花が散生または白色の頭状花をつける。そう菜は狭長針形で短毛がある。

Common perennial weed of up-land field and orebard growing in mountainous district, waste land and roadside propagated by seed. 10-15cm height. Rosulate radial leaf oblongate-linear lanceolate, 1-taxine leaves. Cypheate flower with light yellow or white ligulate flower.

▲中国雑草原色図鑑のタカサゴソウの頁



いかと思われてきた。そこで改めて学名の再調査を行ったところ、なんと560余種が日本名がついているものか或いは日本名がある種のごく近い仲間の一種であることが分かり、約6割も共通種があることが分かった。

今回受け取った写真は全体の約8割だが、分類系順と照らし合わせて見ると途中で抜けている科がいくつかある。これでは編集にかかるわけにはいかない。何故ならば図鑑の編集は写真と文章を1頁毎に正確にレイアウトして進めていくが、途中で抜けているとそれがどのくらいのスペースになるか分からないので前に進まない。そこで今回は写真は多く届いたが編集作業は全体が揃うまで待つことにした。

編集よりも急がなければならないのは写真撮影である。日本との共通種が以外に多く、私が持っていない種類が多くあるのでその植物を探して撮影しなければならない。それらの多くの草は日本では山地にしかないような草で、例えばホソバイラクサ（イラクサ科）、イブキトラノオ（タデ科）、ウメバチソウ（ユキノシタ科）、シャジクソウ（マメ科）、ヤナギラン（アカバナ科）、

オカトラノオ（サクラソウ科）といったように日本ではおよそ雑草とは考えられない山野草が入っている。もっとも今回のリストには対象場面として牧草地が入っているのだからこれなら納得がいった。こうした草が40～50種あった。これらの草の成植物の写真はかなり持っていたが、幼植物、花、果実と生育段階のものまでとなると揃っていないものが多い。これに気付いたのが5月。これならこれから精力的に探して歩けばなんとかなる。早速行動に移した。行動記録を日誌から拾って見ると5月23日（土）朝5時に八王子を出発、軽井沢に向う。9時に軽井沢に到着。軽井沢から小諸、高峯高原まで足を伸ばす。オカトラノオ、イブキトラノオ、シャジクソウを探しあて撮影、収穫あり。八王子に帰ったのは夜9時。6月6日（土）山梨県の野辺山に草を探し求めた。幸いウメバチソウとヤナギランを探しあて撮影に成功。家に帰ったのは夜8時。こうして足りない植物の写真を集めていった。

9月10日中国より残りの写真と文章が届く。これで全部揃った、これで編集が進められる。まずやらなければならないのは中国語の解説文を



▲中国雑草原色図鑑の編集をした日・中の関係者。左から4人目筆者。

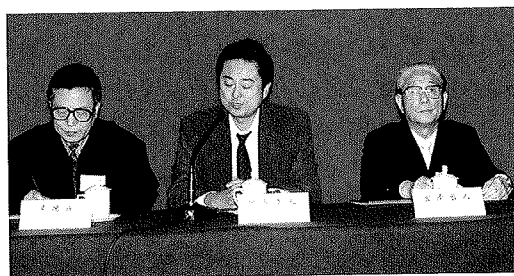
日本文と英文にしなければならない。日植調と相談の結果、日植調研究所の何人かで手分けして作成することになった。この原稿が12月中旬にできあがってきた。しかし、それを見ると個人個人ではよくできているが、数人の人が書いたので文体が揃っていない。これでは一冊の図鑑として使う訳にはいかない。そこで最終的にはこれを基にして私が書き直して統一した日本文にし、それを日植調研究所竹下副所長が英文を作成することにして進めた。

年が代わり平成11年(1999年)1月から編集作業がはじまった。日本文と英文が何頁分かでできあがると1頁に雑草2種類を入れ、それぞれの写真と中国文、日本文、英文を入れてレイアウトする。こうして16頁分がまとまると印刷用語で1台分または1折と言う〔※5〕。この1折分16頁がまとまると印刷に廻すことができる。平成11年4月14日に第1折を印刷会社、笹徳印刷に渡した。完成目標は平成12年3月であるから完成1年前のことである。普通この程度の内容の図鑑は原稿を渡してから完成までには1年半から2年にかかるが、これを1年間で仕上げなければならない。これから難行苦行がはじまった。この年私はこの他に教科書出版会社教育出版から依頼されて学校向けのCD-ROM校庭の植物(草)、校庭の植物(樹木)の制作も引き受け約380種の草と樹木の写真と原稿執筆と写真の選定を行い編集を行った。両方が同時期進行なので身体がいくつあっても足りなかった。

こうして1折~4折まで頁数にして64頁を編集して印刷に回したが、このとき大変なことを発見した。雑草の配列の順番は分類系順にする決めておいたので中国側から来たリストはそれに準じているものと信じて進めたのだが、分類系順でないこととなかには科名が現在は変わっているのに昔のままの科名を使用している

ものがあることが分かった。従って今までやってきたことは総て御破算、頭の中が真っ白になった。

約800種の雑草総てについて点検し、並べ替えて頁を組み替えなければならない。今までやったことは総て無駄。見事な賽の河原であった。しかしいくら悔やんでも失敗は失敗。気を取り直して新しいリストの順番を作りそれに従って1折から編集をやり直した。5月20日(木)、修正した順番にレイアウトした1折と2折を改めて印刷所に回した。完成予定日の9ヶ月前だった。それから後は無我夢中。土曜も日曜も無い。朝から晩まで日本文の修正、写真の選定、レイアウト、写真のトリミングとひたすら1頁でも2頁でも前に進めることに専念した。11月の日誌から拾って見ると、11月15日(月)、13折のレイアウトと写真を印刷所に渡す。18日に九州で日植調の試験成績検討会が開かれ、そこに中国からも来るので図鑑の写真のリストと学名の疑問点を書き出した文書を渡して至急対応してくれるように依頼。11月27日(土)中国語を日本語に書き換える作業、本日で完了する約800種の原稿書きがやっと終わった。万歳。12月18日(木)19日(金)、14、16、17折の写真が不足しているので私が撮った写真の中から探す出するのに2日間を費やした。20日(土)、14、15折の写真のトリミングが終ったのが午前1時。21日(日)、16、17折の写真のトリミングとレイアウト終了したのが午前0時30分。日



▲発行式典に参列した、左から農薬検定所長辛氏、日本大使館農業担当官、日植調吉沢顧問

〔※5〕本の印刷は1枚の紙の片面に8頁、両面で16頁を1枚の紙表・裏に印刷する。これを1台、または1折という。これを折って重ねて製本する。これが印刷の単位である。またときには1枚の紙に片面4頁、両面で8頁で印刷する場合もある。

人民日报 HUADONG XINWEN

华东新闻

2000年3月

29

星期三

庚辰年二月廿四

人民日报社华东分社编辑

第1338期

分社地址:上海市商城路738号 邮政编码:200120
E-mail:mrhbdxw@mail.online.sh.cn

电话总机:(021)58310608
广告电话:(021)58318003

信件收发:(021)58310686
发行电话:(021)58315066

《中国杂草原色图鉴》 在北京首发

中国农业部农药检定所与日本植物调节剂研究协会共同编纂的《中国杂草原色图鉴》于3月27日在北京举行了首发仪式。中日双方共有82位专家及有关方面的代表参加了发行仪式,其中中方26人。《人民日报》、《农民日报》及中央电视台农业频道和科教专栏进行了报道。

这本图鉴是中日两国农田杂草防治技术交流成果的集粹,是双方专家辛勤劳动的结晶,由日本植物调节剂研究协会和中国农业部农药检定所共同负责编写和出版的。农业部陈耀邦部长为这部著作写了前言。为确保图鉴的科学性、准确性和全面性,双方专家付出了辛勤劳动,经常是反复拍摄、调查核实和修改。全书收集了在我国发生危害的800多种杂草的苗、成株、花果照片,用中、日、英三种文字描述,是目前我国乃至世界上包括杂草种类最多的专业科技书籍,在杂草界同类出版物中较具权威性,也是一部学术水平较高的具有实际指导作用的教科书。该图鉴的出版发行为普及杂草知识,提高我国杂草防治水平,加强对外科技交流方面将发挥重要作用。

(农业部农药检定所 周喜应)

农作物新品种获国家补助

本报讯 由科技部、农业部联合组织的优质及专用农作物新品种“后补助”评审结果3月28日在北京揭晓。水稻、小麦、玉米、棉花、大豆、油菜六大农作物的三十一个新品种在评审中脱颖而出,获得政府一次性补助。“后补助”是指国家为鼓励农作物新品种开发,对未拿到国家项目的科研单位培育出的优良品种进行一次性经费补助的措施。(尚佳)

《中国杂草原色图鉴》首发

本报讯 记者蒋建科报道:由农业部农药检定所和日本植物调节剂研究协会历经十年合作编纂的《中国杂草原色图鉴》日前在京举行首发式。该书是世界上包括杂草种类最多、内容最全面的著作。农业部部长陈耀邦题写前言。该书将为提高我国杂草防治技术水平、促进农业可持续发展等发挥重要作用。

北航吉林分公司强化计算机培训

本报讯 北方航空公司吉林分公司的跨世纪建设项目“CART计算机基础训练工程”,经过三个多月的运作,目前见成效。北航吉林分公司为此投资一百六十多万元,建设了具有一流设备和管理能力的CART语音教室和电教室。目前,已有四十三名飞行员考取了飞行员模拟陆空通话合格证,其中十三名飞行员考取了飞行人员模拟陆空通话合格证和飞行人员专业英语合格证。(杨林惠)

▲ 3月27日中国雜草原色図鑑の発行式典を報道した各新聞

誌は12月の奮闘も記してある。12月9日(木)1折から17折までのカラー写真を入れた,色校正を中国から来ていたICAMAのグウさんに渡し大至急校正して送り返すように依頼。12月21日(火)22, 23折のレイアウトと写真一式を笹徳印刷に渡す。これで中国雜草図鑑のカラー頁部分の編集が完了。思えば4月から始めて,月々火水木金と昭和の初期から10年代の日本帝国海軍生活そのものを体験し,9ヶ月かかって348頁の図鑑部分の約3,000点を超える写真のトリミング,800種類に及ぶ雑草の日本語を書き,348頁のレイアウト,校正と総てを1人でやり平均1日5~6時間の睡眠,よく頑張った。70歳のジイサンでもやればできるんだ。万歳。と記してある。

5. 3月21日遂に完成。図鑑を涙川が濡らす

平成12年(2000年),21世紀が明けた。中

国に渡したカラー写真が入った校正が昨年の暮れに半分以上返ってきた。正月早々からそれを見たらかなりの赤の修正が入ってきた。それどころか写真の差し替えもでてきた。時間がない。焦りに焦って笹徳印刷に無理を言ってなんとか納得してもらい進行した。笹徳印刷もよく協力してくれて3月2日総て校了となった。中国で行なう発行式典まで残り25日という日であった。後3週間でA4, 432頁のカラー印刷の上製本の図鑑を印刷,製本して完成させなければならない。常識的に最低1ヶ月はかかる工程で無理難題である。笹徳印刷に出向いて社長をはじめ役員に無理を承知でお願いをして何とか間に合わせると快諾をいただいた。人前にもかかわらず私は涙を拭いた。

それからの3週間,毎日笹徳印刷に電話をして進行状況を確認した。

平成12年(2000年)3月21日遂に完成。見本20部が届き10部を日植調に持って行き、吉沢顧問に届けたら吉沢顧問も喜んでくれ、よく間に合わせてくれたと礼を言われた。事務所に帰り改めて図鑑を開いて眺めたら、図鑑の頁に涙が落ち、それが広がって頁が濡れた。

中国という巨大大陸の雑草約800種を収録し、しかも生育段階を追った写真を入れた図鑑は中華人民共和国でも初めての図鑑である。これだけ膨大な写真と800種に及ぶ多量の解説文をたったの3年間で撮影し、執筆されたということは、如何に中国政府が協力してくれたとはいえ何百人もの人がこのために努力してくれたことに改めて感謝の意を表するとともに頭が下がった。

また、日本側の吉沢顧問の雄大な発想と強い指導力と実行力によって為し遂げられた図鑑であり、経費総額は4,000万円超であった。吉沢顧問がいなかったらできなかったとともに、日本の除草剤関係のメーカーによる多額の援助がなかったら成功しなかった事業である。さらにこの「中国

雑草原色図鑑」は私の雑草に関する図鑑の集大成でもあった。

この日、中国にも式典用として100部航空便で送った。これで間に合ったとホッとするとともにまた涙がこぼれた。

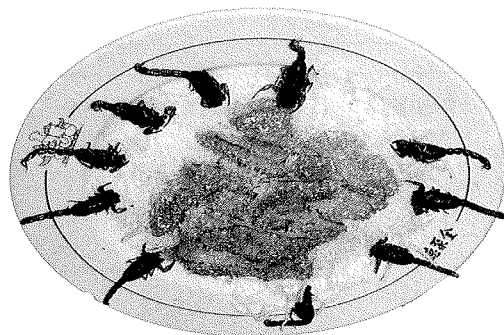
ところがところがである。3月24日に中国に送った100部が北京空港で関税の問題で通関しない。急遽日植調から式典用に寄贈する旨の文書を作成して提出したが、通関には時間がかかり27日には間に合わないということになった。止むを得ず私達中国に行く人に分散して55部を式典用に持ってもらって漸く間に合ったのである。最後の最後までではらはらせられた図鑑である。「中国雑草原色図鑑」はこの後ICAMAに4,000部を寄贈し、中国全土の各省農業科学院、中央の大学、農業科学院など関係機関に配付された。また、一部はベトナム、タイ、インドネシアなどにも渡っている。

波乱万丈の4年間だったが、こんな大仕事に参加できたことは、私の生涯で最も記憶に残る喜ばしいことだった。

この図鑑を見る度に発行式典の祝賀会の料理にでてきた「サソリ」のからあげの味が思い出される。この図鑑が完成したのは、私の71歳の至福の出来事であった。(続く)



▲中国雑草原色図鑑を手荷物として持っていった。右のダンボール箱がそれである。北京空港にて。



▲祝賀会の料理にでた「サソリ」の唐揚げ。おいしかった。